

普及技術

平成 22 年度

“もうかる！” 水稲育苗ハウスでつくるぶどうのアーチ栽培		
[要約] 水稲育苗ハウスを利用したぶどう「ピオーネ」のアーチ栽培は開園費用約 67,000 円/a で植栽後 2 年目で収穫が始まり 4 年目で開園費用が回収できる。また、5 年目からは約 80,000 円/a の所得が確保され成園化が可能である。		
農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

遊休期間の長い水稲育苗ハウスを利用してぶどうのアーチ栽培を導入することにより、施設の有効利用と果樹栽培での複合経営をすすめ所得の確保をはかる。

[成果の内容・特徴]

- 1 水稲育苗ハウスでの現地実証から本栽培方法を導入した場合の経営試算は以下の通りである。
 現地実証栽培モデル：育苗ハウス 1 a (幅 5.4m×長さ 18m) に「ピオーネ」12 本を植栽した場合
 - (1) 本技術の導入にかかるコストは 1 a あたり約 67,000 円となる (表 1)。
 - (2) 植栽後 2 年目から収穫が可能で、3 年目から本格的に出荷が始まり 4 年目には開園費用 67,000 円が回収可能となる (図 1)。
 - (3) 開園 5 年目では、ぶどう単価 900 円/kg とすると労働費 (家族労賃) を含めて約 80,000 円/a の所得が確保できる (表 2)。
 - (4) 年間の労働時間は 24.2h/a で水稲の主要作業時期との競合は少ない (図 2)。
- 2 「育苗ハウスを利用したぶどうのアーチ栽培技術」マニュアルは新潟県農業総合研究所ホームページ (<http://www.ari.pref.niigata.jp/>) からダウンロードでき、誰でも利用することができる (図 3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 この実証モデル農家は 4ha 規模の水稲兼業農家で、はじめてぶどう栽培に取り組んだ。
- 2 育苗ハウスの土質は砂壤土でぶどう植栽後にハウス内の耕耘は行っていない。
- 3 かん水は必要に応じて適宜実施する。特に植え付け 1 年目は根域が狭いため注意する。
- 4 基本的な栽培技術は平成 20 年度活用技術「育苗ハウスを利用したぶどうのアーチ栽培技術」として公表済みである。

[具体的データ]

表1 開園費用(育苗ハウス1aの場合)

項目	金額(円)	摘要
苗木	24,000	ピオーネ @2000*12
棚用パイプ資材	9,750	25mmパイプ、ジョイント等
棚線	30,000	#14、50kg
肥料等	3,000	肥料、堆肥
開園費合計	66,750	

表2 経営試算(ピオーネ12本/a植栽 開園5年目)

項目	金額(円/a)	摘要
売上高 ⁽¹⁾	108,000	単価:900円/kg、収量:120kg
経営費 ⁽²⁾	24,429	労働費(家族労賃) 除く
肥料・農薬費	11,506	肥料:2,866円、農薬:8,640円
内 減価償却費	5,563	ブドウ樹
訳 販売費	5,760	出荷箱 等
その他	1,600	諸材料費 等 ※雇用労賃なし
所得 (1)-(2)	83,571	

注) 減価償却費は開園費用をぶどう樹耐用年数12年として計算した。

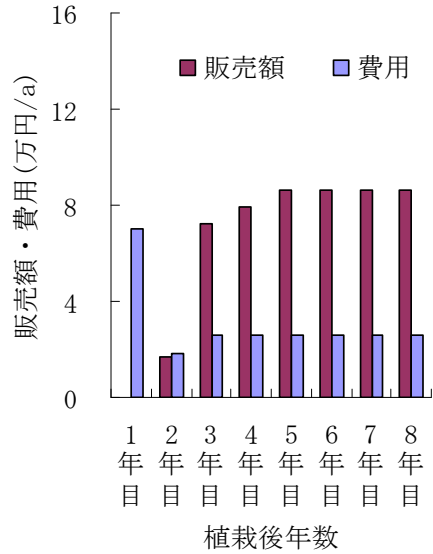


図1 開園からの販売額と費用の推移 (6年目以降は試算値)

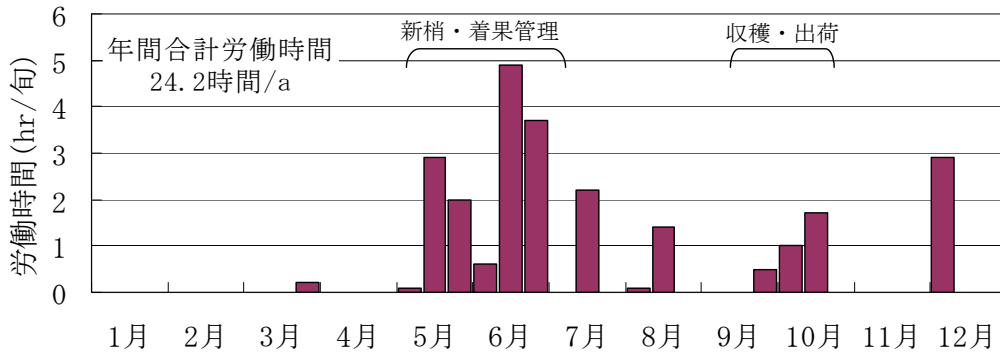


図2 水稲育苗ハウスを利用したぶどうのアーチ栽培における年間労働時間

図3 水稲+果樹複合経営のための新たな果樹栽培管理マニュアル(抜粋)

[その他]

研究課題名：北陸の気象・重粘土壌条件下での高商品性省力果樹栽培技術の開発
 予算区分：実用技術
 研究期間：平成17～21年度
 発表論文等：